

令和7年度

鳴門市瀬戸中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教材の提示の工夫や学び方の指導を通し基礎学力の定着を図る。
- 個に応じた指導を充実徹底し、授業規律の定着を含む、自ら学ぶ態度を育てる授業を実践する。
- 学力の確実な定着に向けICT環境を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる。

校長

幸路 義文

学力向上推進員

校長 幸路 義文 教頭 天満 洋介
 教務主任 大森 由美子 1年主任 井原 晴司
 2年主任 広田 圭祐 3年主任 佐川 佳織 学力
 向上担当 河野 孝介

【小中連携における共通の取組】

幼小中の11年間を通して、系統的・継続的な学習指導を行い、「学びのプラン」「すくすく瀬戸っ子成長の記録」を実践する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○単元テストの実施で、自己の課題や問題を発見することができる。 ○AIDリル(キュビナ)を活用し、各教科において、間違えた問題のくり返し学習を行うことができる。 ●家庭学習が不十分である ●基礎基本が定着できていない。	・学習目的の理解と基礎基本の定着を図り、一人一人の生徒に確かな学力をつける。 ・自ら意欲的に学び、確かな学力を身に付ける。	・タブレット端末の持ち帰りを含め、家庭学習の在り方を検討し、個別最適な学びを推進する。 ・各教科でノートの取り方を明示するなど、自己の課題解決に向けて、基礎基本の定着が図れるように授業内容の工夫・改善を検討する。	・宿題(課題)を与え、家庭での学習時間の確保につなげる。	・宿題(課題)の提出により学力の向上が見られた。 ・授業プリントの作成やワークの活用で、板書された内容を生徒自身がまとめることができた。 ・タブレットを使った学習を授業内で取り入れることで、前向きに参加する姿勢がみられた。	・まずは難易度の低いものから、「できた」と感じることでできる課題や授業展開をすることで、学習への意欲を向上させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の読書や視写を通して、読む・書く・考える等の内容をまとめる力がついてきた。 ○他者へのプレゼンを行うなど表現力の向上がみられた。 ●感想等、自分の考えをまとめ伝えることを苦手と感じている生徒が多い。	・常に課題追究の意識をもって学習に取り組むことができる。 ・話し合い活動やグループ活動を通して、自分の考えをより深めたり、他者の意見を参考に思考を広げ、自己有用感を高めつつ、課題解決に向けて考察できる。	・ホワイトボードやICT機器等の活用により、自分の考えを深め、伝える活動を増やす。 ・「思考ツール」を取り入れた学習内容の充実を図り、協働的で深い学びを実施し、互いに課題解決に向けて取り組めるようにする。	・ペア学習や調べ学習など、自らの考えを伝える活動を積極的に取り入れる。	・発表する前に十分にその事柄を調べたり、合っていると確信がもてる場合には自信をもって発表したりすることができた。 ・「思考ツール」を取り入れてものごとを捉え、考える状況を十分に確保できなかった。	・長文を読み解く力や文章を読んで内容を整理、把握することが苦手であり、諦める傾向にあるため、引き続き、朝の読書や視写を通して、読み書きの力を身につけさせる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「群青」への記入を通して、自己目標の達成に向けて取り組める生徒が現れた。 ●一方で、思うように記入できず、行動に写せていない生徒も見受けられた。 ○放課後や休み時間に互いに教え合ったり、先生に質問している生徒の姿がみられた。 ●家庭学習が不十分である。	・学びへの意欲を持ち、自ら進んで学習する。 ・自分の学習の状況を振り返り、家庭学習の時間を確保し、主体的に学習に取り組むことができる。	・諦めさせない学習指導の追究 ・「群青」の目標を再確認し自己実現に向けて取り組むことができるようにする。 ・めあて、比較、対応、振り返り等、学習内容を可視化し、生徒が次の学習への意欲を持つような板書の工夫をする。	・PBSの実施で自己有用感を高め、自ら学ぶ意欲を育む。	・「ありがとうのハート」メッセージやPBSの実施により、ポジティブな行動が増え、それが学習面にも反映されている様子もみられた。 ・家庭学習をしていないと感じている保護者・生徒も多く、実際に家庭学習習慣が身につけていない。	・教職員全体でPBSを意識的に取り入れることで、日常生活の良い行いや学習意欲を向上させる。 ・AIDリルの実施状況の可視化により、自ら取り組む環境を整える。